



最近街角では、タピオカ飲料を提供するお店を多く見かけます。あのタピオカ、キャッサバというタイで多く収穫されるイモが原料です。そのイモから採れるデンプンを加熱処理し球状にしたものがタピオカです。

そんなタピオカの植え付けと収穫に、弊社の農業機械部門が製造しているキャッサバ専用機がタイで大活躍しています。

遥々海を渡って日本の街角に到着するタピオカ。よりよい農作物の提供に、微力ながら、お手伝いできることを私たちは、誇りに思っています。

DUCTILE TIMES編集部

クボタダクティル鉄管製水管橋



水道管として多く皆様にご利用いただいているダクティル鉄管ですが、

実は、水管橋でもダクティル鉄管はその力強さを発揮しています。最近台風や豪雨災害が多く発生し、土砂を含む濁水が河川を流れ、それにより水道施設が被災する事例が見受けられます。

そのような中で、ダクティル鉄管すなわちHRDIP(耐震継手ダクティル鉄

管)で構成されている水管橋が、災害に耐えた事例が各所で報告されています。

他の水管橋用管材に比べ管材材料費が安価で、現地溶接が不要で短時間で架設できるため、工事費も節減できます。受注後は、弊社工場で組み上げテストを行ってからの納品をさせていただくため、現地での施工品質もよい、と高い評価をいただいております。

見学会レポート

from 宮城県仙台市



去る11月21日、仙台市の40名を超える水道局職員の皆様が、市内の水管橋(呼び径100×支間長13.3m)の施工現場を見学されました。

仙台市ではこれまで水管橋は鋼管製しか採用されておられませんでした。しかし開削部での耐震継手の信

頼性が高いこと、鋼管に対してコスト面・施工面で優位なことから、ダクティル鉄管製水管橋を検討され、初めて採用されました。

災害にも耐えられる強い点に大きな期待を寄せられています。



見学会の様子



水管橋のある風景

呼び径350×22.23mダクティル鉄管製水管橋

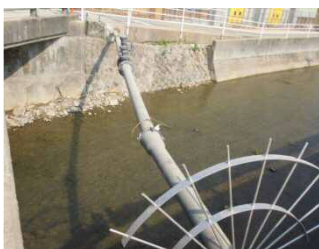
ダクティル鉄管製水管橋が災害に耐えた事例をご紹介します。

現場①

広島県 呉市内

平成30年7月豪雨は、中国地方を中心に甚大な被害をもたらしました。本市においても、土砂や流木が河川に流れ込み、水管橋に衝突する事例

が発生しました。しかし、当該水管橋はダクティル鉄管(呼び径150)であったことから、継手部がわずかに屈曲しただけで、通水機能を保持し水道水を供用し続けることができました。



継手が屈曲した状態
(補修され現在は元の形に)

(広島県 呉市上下水道局 管路管理課 主幹 丸田 様)

これは、HRDIPと称される災害に強いダクティル鉄管によるものであったことが大きいと考えています。

今後も災害時の被害をより小さくするため、ダクティル鉄管製水管橋を布設していきたいと考えています。

現場②

宮城県内

東日本大震災の津波被害地区において、水管橋はそのほとんどが被害を受けていました。

しかしながら、当該現場においては、水管橋にダクティル鉄管のNS形継手(呼び径350)を使用されており、被害を免れています。外面の保温材は損傷していましたが、管本体はほぼ無傷で、通水機能を保持していました。これにより、



津波にも耐えた橋梁添架管

津波に対しても耐震管が有効なことが示されたといえます。

出典：2011年東北地方太平洋沖地震による水道施設の被害写真集
(水道産業新聞社)

(DUCTILE TIMES編集部)